



講師：加藤 伸司先生



グループディスカッションの様子

認知症サポート医フォローアップ研修 開催報告

今年度は、サポート医・かかりつけ医の先生方58名に受講頂き、認知症に対する関心の深さが伺えました。

冒頭、認知症介護研究・研修仙台センターの加藤 伸司先生から「認知症家族介護の理解と支援」をテーマに、認知症介護特有の問題点から介護者の負担、続柄から生じる心理症状まで、詳しくご講演頂きました。認知症の中核症状や行動、心理症状やケアの基本を理解することが出来れば、介護者の負担が少しでも軽減でき、介護者への労いの気持ちや優しい声掛けがあることにより、介護される側にもする側にも余裕が生まれるという事を改めて学ぶ機会となりました。

引き続き、京都市地域包括支援センター・在宅介護支援センター連絡協議会から京都市紫竹包括支援センターの小畑 智子様より、「北区・上京区認知症サポートネットワーク連絡会の取り組み」についてご講演頂いた内容を基に、源野勝敏会長をはじめ、10名の地域包括支援センターの職員の方と共にグループディスカッションを実施し、受講者からも「情報交換として役立った」「地域包括支援センターの重要性が理解できた」とのご意見を頂きました。

最後に認知症サポート医の、村上 陳訓先生(済生会京都府病院) から「認知症と慢性硬膜下血腫」、生天目 英比古

先生(蘇生会総合病院) から「亜急性の認知機能、身体機能低下を呈した2症例」の症例提示と討議を行い、質疑応答も活発に行われました。次回の研修会に対する期待の声も多く寄せられ、会は終了いたしました。

● 受講者のご意見 (受講後アンケートより抜粋) ●

- 介護問題を家族の続柄から考えることで、今までなんとなく思っていた事がきちんと確認できました。
- 地域包括支援センターとの距離感が認知症の早期発見につながると思っています。
- 同じ地区医師会のグループだったので、この地域での「認知症の入口問題」について話し合えたのが有意義だった。



講師 小澤先生と座長 角水理事による質疑応答の様子



講師 中澤氏と座長 西村理事による質疑応答の様子

府民公開講座 開催報告

2月7日(日)「京都府医師会 府民公開講座 ～人生の残り1/3備えあれば憂いなし～」を府医会館にて開催し、雪模様の寒い日にもかかわらず、240名の府民のご参加をいただきました。

講演の前半では、めぐみ在宅クリニック院長 小澤 竹俊先生より「今日が人生最後の日だと思って生きなさい」と題し、人生の最終段階における「苦しみ」とどのように向き合っていくのかを、在宅看取りでの様々な経験を交えて非常にわかりやすくお話しいただきました。人生の最終段階におけるスピリチュアルケアとして「苦しんでいる人は自分の苦しみをわかってくれる人がいると嬉しい」という援助的コミュニケーションの基本に、「苦しみ」を通して、対象者が自分自身を好きになれるような支援を行っていくことの大切さを学ぶことができました。

後半の講演は、「おひとりさまの時代をどう生きる?」と題し、ノンフィクションライターの中澤 まゆみ氏より著書「おひとりさまの終活」の中から自分らしい終活のために必要な「老後の備え10か条」について、それぞれ具体的にお話しいただきました。

医療も介護も認知症も「自分ごと」としてとらえる、元気うちに家族と話し合い準備をする、

人生最大の終活はたっぷり生きて、安らかに旅立つことであり、「これからの超・超高齢化社会で問われているのは私たち自身です」と、講演を締めくくられました。

知っておきたい!

在宅医療と 介護保険

介護保険の利用開始について

「この患者さん、そろそろ介護認定の申請をした方が良いと思うが、手続きはどのようにしたらよいのか…」と思われた事はございませんか?介護認定の申請は、お住まいの市役所、区役所・支所等で受付けていますが、申請代行を地域包括支援センターや居宅介護支援事業所でも行っております。まずはお住まいの市役所、区役所・支所等にお問合せ下さい。

お問い合わせ、ご意見及びご感想は

京都府医師会在宅医療・地域包括ケアサポートセンター

〒604-8585 京都府京都市中京区西ノ京東梅尾町6番地 京都府医師会館3階 tel.075-354-6079 fax.075-354-6074

京都府医師会

在宅医療・地域包括ケア サポートセンター news

Vol.10

2016年3月1日

京都府医師会在宅医療・地域包括ケアサポートセンター
〒604-8585 京都府京都市中京区西ノ京東梅尾町6番地 京都府医師会館3階 tel.075-354-6079 fax.075-354-6074

超高齢社会への備えを!



わが国は、2008年から人口減少社会に入りました。2010年から2040年の間の人口変動を世代別にみると、65歳から74歳(前期高齢者)はほぼ横ばい、75歳以上は2030年まで増え続けますが、その後はほぼ横ばいで約800万人増える一方で、0歳から65歳は約3000万人減少すると予想されています。結果として、人口全体では、約2000万人以上減少するわけですが、高齢者が増えて、若年者が減少することによって2060年には、2.5人に一人が高齢者という社会になるといわれています。

人口の減少と超高齢社会は、医療・介護の世界にも大きな変化をもたらします。高齢者と若年者の医療は違うということは一概には言えませんが、一般的に若年者が受ける医療は従来の「治す」あるいは「救う」医療であり、一方高齢者の受ける医療は完治だけを指すのではなく、それに加えて、「支える」「癒す」「寄り添う」などの住み慣れた場所で安心して暮らすためのものが大切です。その高齢者に必要な医療・介護をどのように提供するかという課題に私たちは直面しているのです。

現在、高度急性期に集中している医療供給体制を高齢者医療・介護にシフトさせるのが地域医療構想であり、多職種が協働して地域で乗り切ろうというのが、地域包括ケアシステムと考えると私たちが取り組まなければならない課題が理解しやすいでしょう。言うまでもなく、医師には、在宅医療・地域包括ケアの中心的役割を果たすことが期待されています。

在宅医療・地域包括ケアサポートセンターは、在宅医療に取り組んでおられる先生方をサポートすることを目的に設立されました。また、少しでも多くのかかりつけ医の先生方が在宅医療に参加できることを支援するための取り組みとして、京都府医師会では在宅療養あんしん病院登録システム、京都府医療トレーニングセンターの運営などを行っています。医療・介護を取り巻く環境はますます困難を極めていくことが予想されます。だからこそ、医療界が一体となった取り組みが必要です。先生方の一層のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

京都府医師会 副会長 松井 道宣

第4回 京都在宅医療戦略会議 開催報告



中京東部医師会 地域医療(認知症)担当理事 辻 輝之先生



1月23日(土) 第4回 京都在宅医療戦略会議を開催し、23地区医師会から25名の会長及び担当理事の皆様にご参加をいただきました。会議では、第3回に引き続き在宅医療を推進する上で重要なテーマであります「地域医療介護総合確保基金を活用した事業」「地域医療構想への対応」について、意見交換を行いました。

1. 「地域医療介護総合確保基金を活用した事業」

中京東部医師会 地域医療(認知症)担当理事 辻 輝之先生から、大阪府医師会の取組を参考に、在宅医療コーディネータとして看護師・社会福祉士を雇用、地域の課題を抽出し問題解決していくために在宅医療のフレームコーディネートの機能を持たせた事務局として、中京在宅医療センター内に「地域の『地域連携室』」を設置した経緯と事業内容をご紹介いただきました。

また、在宅医療・介護連携において課題の多い認知症、難病、看取りに関するワーキンググループを開設したことも紹介され、平成30年度からの地域支援事業への移行も視野に入れ、顔の見える切れ目のない在宅医療介護連携体制の構築と、関係行政との連携づくりを行っていききたいとの意気込みを述べられました。

2. 地域医療構想への対応について

北川副会長より各医療圏域における地域医療構想調整会議の状況報告を含め、地域医療構想への対応について説明いたしました。

地域医療構想策定にあたって、厚労省より示されたガイドラインによる在宅医療の医療需要推計を紹介し、在宅医療の受け皿がなければ地域医療構想は成り立たない

として、各圏域の地域医療構想調整会議において地域の実情を踏まえた予測に基づき、在宅医療等の整備計画を作成することが重要であるとの考えを示しました。

その上で、地区医師会は、かかりつけ医としての役割、在宅医療の整備を総合的に検討しつつ、地域医療構想に対して提言をしていくべきであるとし、在宅医療の現状把握の基礎となる会員の皆様へのアンケート調査を提案しました。より正確な現状把握のためにもアンケート回答率を悉皆調査に近いものとし、信頼あるデータが作成できるよう各地区医師会に協力を求めました。

説明後には、各地区より在宅医療の現状や地域医療介護総合確保基金を活用した事業の報告、在宅医療に関するアンケートへのご意見もいただきました。

アンケートは2月中旬より発送し、府内の会員医療機関(診療所、病院管理者宛て)に「在宅医療への取り組み状況・今後の展望」についてのご回答をいただく内容となっております。

アンケートについてのご質問は、京都府医師会在宅医療・地域包括ケアサポートセンターまでご連絡ください。

第4回 京都在宅医療塾Ⅱ ～実践編～ 開催報告

2月18日(木)、府医会館5階京都府医療トレーニングセンターにて、「在宅での呼吸管理について」をテーマに開催致しました当研修会は16名の先生方にご参加いただきました。

次回3月17日(木) 第5回研修会は、「在宅での嚥下評価・栄養管理について」をテーマに開催致します。シリーズ最終回となりますので、是非ご参加下さい。 詳細は、医報、サポートセンター HP をご覧ください。



三菱京都病院臨床工学科長代理 篠原 智彦様



ブース① 「気管カニューレの交換・管理」



ブース② 「NPPVの装着・管理」



ブース③ 「NPPVの回路交換」



質疑応答の様子



まつだ在宅クリニック院長 松田 かみ先生

- 受講者のご意見(受講後アンケートより抜粋) ●
- 人工呼吸器の進歩が著しいと思った。(今回はロールプレイでなくて安心して参加できた)
- またまた今回も、自己流で人工呼吸器の回路、カニューレ交換をしまっていることに気がきました。マスクを装着して実体験できて良かったです。慣れるまでしんどいのが分かりました。
- 実践があったのがよかった。在宅ではないがSASでCPAP処方しているもののマスクをつけたりしたことなかった。
- 人工呼吸器を管理した事がないので今回、在宅での交換時の参考になりました。COPDの患者さんが沢山いますのでそのうち導入が必要になるかと思えます。

生活機能向上研修「排泄支援 Part」 開催報告



今年度、北部会場(サンプラザ万助)では、2月6日(土)に17名、南部会場(府医会館)では2月20日(土)に14名の医師や看護職、介護職の方にご参加頂きました。

はじめに、泌尿器科上田クリニック院長の上田 朋宏先生より「排泄ケアのイロハ」をテーマに、膀胱の役割から尿失禁の原因に至るまで幅広くご講演頂き、引き続き看護師の立場からNPO快適な排泄をめざす全国ネットの会の山口 昌子先生より外来看護師の役割や具体的な診療報酬の算定方法についてご講義頂きました。

その後、NPO 快適な排泄をめざす全国ネットの会 田中 悦子先生のご協力のもと、2種類の残尿測定方法(ブラダースキャン、ゆりりん)を受講者が実際に測定し、プローブの当て方や測定のコツなどを体験して頂きました。

また、はいせつ総合研究所 排泄用具の情報館、むつき庵の浜田 きよ子先生、平田 亮子先生からは、おむつの選定方法や当て方など、受講者ご自身でおむつを装着して頂き、色々な坐位による体への負担を感じたり、下肢の関節を可動させ不快感を体験するなど、おむつを実際に装着してこそ判る事を体感出来る実習を行って頂きました。

排泄に関しては介護する側、介護される側もデリケートな問題で、相談しにくい事のひとつです。今後も引き続き研修会の実施や相談事業を展開し、対応力の向上を目指して参ります。

- 受講者のご意見(受講後アンケートより抜粋) ●
- 排泄ケアについて、医療職、介護職の研修と家族向けの啓発が必要と思いました。
- 患者や家族が相談できる窓口があれば良いと思いました。
- GWで色々な職種の意見が聞けて良かったです。
- 内容も具体的で実際に現場で生かしていければと思います。演習があったことで深めることができました。



平成27年度 3月の研修会のお知らせ

● かかりつけ医認知症対応力向上研修

舞鶴会場

平成28年3月5日(土) 14:00~17:00

会場 舞鶴市西駅交流センター 3Fホール

対象 医師、医療関係職種並びに介護職員等

● 京都在宅医療塾Ⅱ ～実践編～

第5回目 シリーズ最終回となります。是非ご参加下さい。

平成28年3月17日(木) 18:00~20:00

会場 京都府医師会館 5F【京都府医療トレーニングセンター】

テーマ 在宅での嚥下評価・栄養管理について

対象 医師

● かかりつけ医認知症対応力向上研修(集合研修)

北部会場

座学のみ

平成28年3月26日(土) 14:00~17:00

会場 ホテル北野屋 ハーモニーホール

対象 医師、医療関係職種並びに介護職員等

● 京都在宅医療塾Ⅰ ～探究編～

第4回目 シリーズ最終回となります。是非ご参加下さい。

平成28年3月6日(日) 10:00~14:00

会場 京都府医師会館 3F【310】

テーマ がん患者の在宅緩和ケア

● 第7回「難病の在宅医療を考える」講演会

平成28年3月26日(土) 14:00~17:00

会場 京都府医師会館 3F【310】

テーマ ALSの在宅看取りを考える

対象 医師、歯科医師、看護師、保健師、リハビリ療法士、介護支援専門員、MSW(社会福祉士)、病院地域連携関係者 等

第2回 生活機能向上研修 ～食支援 Part～
(2月27日開催分) は次号でご報告します